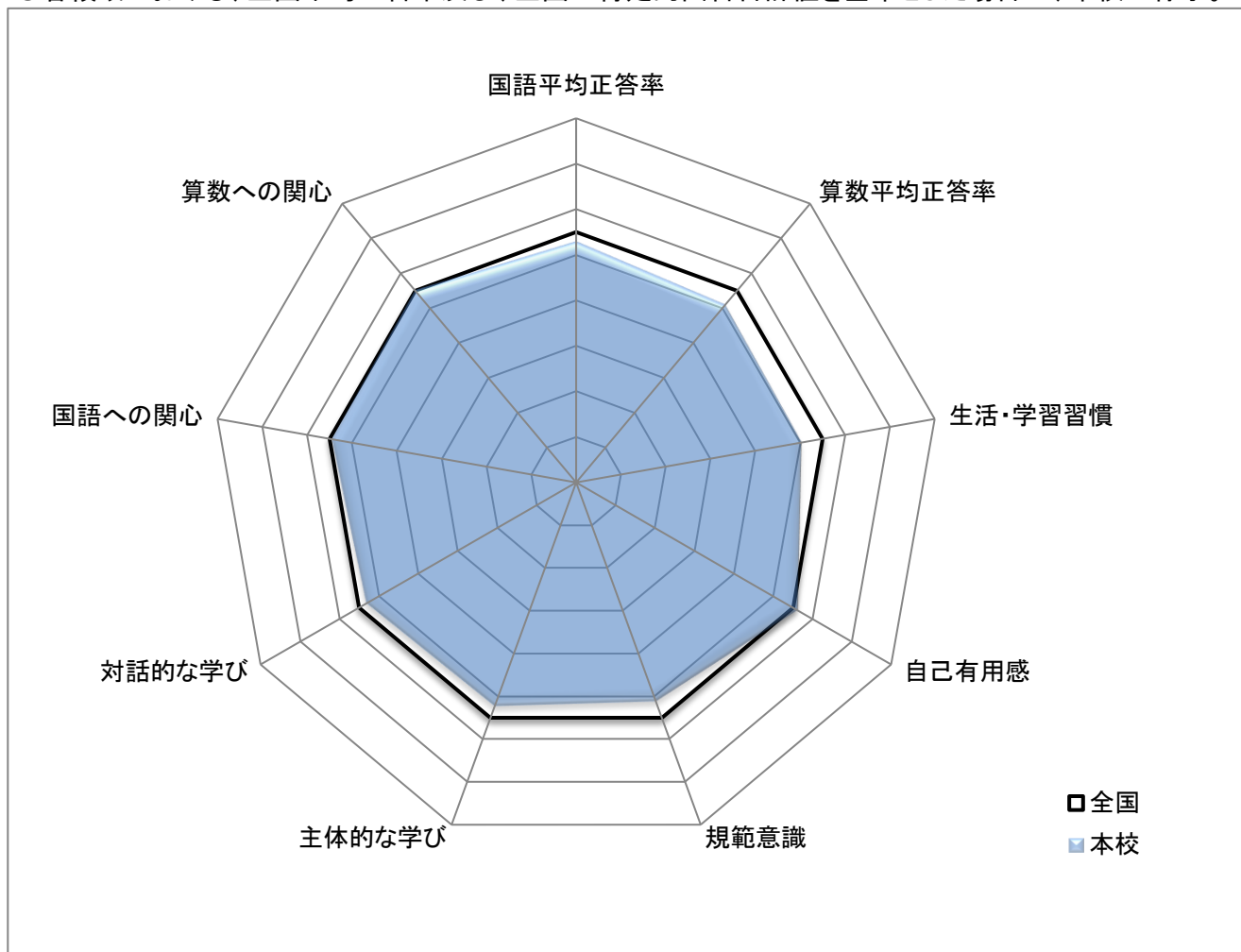


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語・算数の《関心》に関してはほぼ全国の平均に近い数値となった。一方《正答率》に関しては全国の平均を下回る結果となっている。また、生活・学習習慣や主体的な学び、規範意識などの項目では全国の平均値を下回る結果となった。特に生活・学習習慣が最も低く、大きな課題となっている。

《授業改善のポイント》

国語の読み解く力の育成に向けて、ノート指導や説明文読解の指導の充実を図る。また、表現力の育成に向けて、校内で研究を重ねている読書科との関連を生かしながら調べたことを分かりやすくプレゼンテーションする力を身に付けさせる。
算数においては、3学級5展開の習熟度別指導の良さを活用し、基礎基本の充実を図る。きめ細かな指導を行うことにより、全体的な学力の層を上げていく。
授業規律を徹底し、安心して学べる授業を展開するとともに、児童が主体的・対話的に学習に取り組めるように、意図的・計画的な指導を行う。

《チャートの特徴》

国語への関心・算数への関心については、全国平均とほぼ同等の結果となった。その他の項目は全国平均をやや下回る結果となった。特に、生活・学習習慣の項目が低く、学習をするまでの環境に課題があると分析することができる。家庭学習の習慣が身に付いていない児童も多く、そのため基礎・基本の定着を図る必要がある。
一方、自己有用感が高いという結果が見られた。個々に応じて課題設定を明確にし、解決に向けて繰り返して学習に取り組ませていく。

《家庭・地域への働きかけ》

基礎基本の充実を図るために、学年×10分の学習時間を確保できるよう家庭と連携を深めていく。また、毎学期2週間の家庭学習キャンペーンを実施し、家庭学習の充実が図れるように取組をしていく。